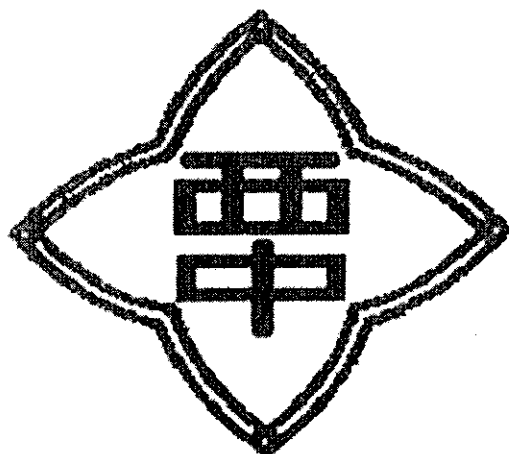


# 学習の手引き2019

大和高田市立高田西中学校

第1学年



# はじめに



## ◎「学習の手引き」について

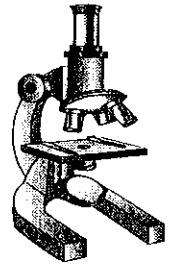
このような冊子をすべての学校で出しているものではありませんが、学校の教育活動に関する、各教科ごとのねらい（目標）や計画、授業の進め方、使用する教科書や副教材、評価のしかた、学習のしかたやアドバイスなどを、生徒や保護者のみなさんに示した説明書です。



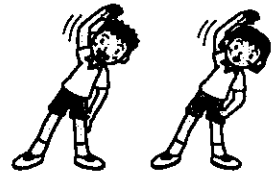
## ◎「学習の手引き」に示していること

「学習の手引き」には各教科で

- ① それぞれの教科が目標としている、ねらいは何だろう
- ② どんな学習がどんなふうに進んでいくのだろう
- ③ 家庭学習の進め方や、テストに向けた取り組み方のアドバイス
- ④ テストや授業でどんな力が育っているのかを見る方法について
- ⑤ 授業や学習方法全般へのアドバイス
- ⑥ 1年間のうちでどんな学習がいつごろ行われ、それぞれの時期にどんな力をつけていくのだろう



ということを書かれています。



## ◎「学習の手引き」を通して、みなさんの学習に期待すること

この「学習の手引き」を本棚に立てておいただけでは役には立ちません。

みなさんが、これらのアドバイスをもとに、自分の力を伸ばしていく手助けとなるように、つくった冊子です。

学校では主として、授業を通じて学習を進めます。けれども、自ら学ぼうとしないと、勉強したことは頭に入ってはきません。勉強したことを使わないと自らの力にはなりません。学習は身体全体を活用することが大切です。目と耳だけではなく、全身で集中して授業や家庭学習に取り組んでください。

たとえば、ある教科の学習で

- ・ 黙読だけでなく、何度も声に出して音読する
- ・ ただ読むだけでなく、線やマーカーを入れながら読む
- ・ 読んで分かってきた大切なところを何度も書いてみる
- ・ 分かってきたら、問題を解いてみる

が効果的である、と言われてています。



でも、自分でやってみないと効果があるか、自分にふさわしい方法かどうかは分かりません。この「学習の手引き」を活用し、自分流の脳の磨き方を獲得し、「他の動物にはできない、人間にだけ可能な『なりたい自分』の実現」を、ぜひ目指してください。

平成31年度 第1学年 国語科

1	週単位時間	4 時間	2	授業形態	学級単位の普通授業
3	使用教科書	光村図書（国語1） 東京書籍（新編新しい書写1・2・3年）			
4	副教材としての使用教材など	○新国語便覧 秀学社 ○新しい国語のワーク1 秀学社 ○すらすら基本文法 浜島書店 ○毎日続ける10問漢字 浜島書店			
5	この教科の学習のねらい	国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めると共に、思考力や想像力を養い言語感覚を豊かにし、国語に関する認識を深め国語を尊重する態度を育てる。小学校での学習を基本としながら、おもに日常生活にかかわることなどについて、考えをまとめ、広げる。書写については、文字を正しく整えて速く書くことができるようにするとともに、書写の能力を学習や生活に役立てる態度を育てる。			
6	授業の進め方	大学ノートを縦書きにして使います。あとで見直しできるようにノートを丁寧に書き、整理し、まとめましょう。また、メモ欄を作り、学習に役立てましょう。授業中は、自分で考え発表する力をつけるために、積極的に発言し、互いの意見を尊重する授業をつくりあげていきましょう。また、毎回漢字のワークを使用し、新出漢字の練習を行います。丁寧に練習し、残りは宿題として次回の授業までに仕上げましょう。文法ワークは3年間を通して使用します。紛失することのないように管理しましょう。			
7	家庭学習や課題について	その日の授業の復習（教科書を読み返したり、ノートを見直したりして振り返る）を積み重ねましょう。また、学習ワークで語句の意味調べや予習・確認をしたり、漢字ノートで漢字を反復して覚えたりしていきましょう。自主勉ノートによる主体的な家庭学習、読書や新聞を読むことなども有効です。			
8	定期テストや評価の方法について	年5回の定期テスト（1学期中間・期末、2学期中間・期末、3学期期末）を行い、国語科の5つの観点の内、「書くこと」「読むこと」「言語に関する知識・理解」を評価します。授業の中では「関心・意欲・態度」「話す・聞く」を含めた5観点全てについて評価を行います。「伝統的な言語文化と国語の特質に関する知識・理解」の中に、書写も含まれます。また課題への取り組み、提出物、小テスト、評価プリント、授業での発言なども評価に加えます。			
9	授業や学習に対するアドバイス	教科書・ノート・ワークなどの準備物を忘れず、集中して、意欲的に授業に取り組みましょう。わからないことは遠慮なく質問しましょう。また、友達の考えをしっかりと聞き、自分の考えも積極的に述べましょう。			
10 年間の学習事項と評価					
時期	学習内容（単元・章・節など）	目標（つけたい力）	指導の要点・評価事項など		
4月	詩（読む） 声を届ける 書き留める（話す・聞く 書く）	それぞれの詩に込められた思いを読み取り、朗読する。	朗読の注意点について説明し、表現できているか。		
5月	物語文①（読む）  観点を立てて書く（書く） 漢字の組み立てと部首（言語） 友達をみんなに紹介しよう（話す・聞く） 説明文①（読む） 「伝わる」表現①（話す・聞く）	登場人物の行動から気持ちの変化をとらえる。  観点を立てて情報を集め、整理してわかりやすく説明する。  必要に応じて質問しながら聞き取り相手にわかりやすく伝える。	登場人物の行動をとらえ、気持ちの変化に気づくことができるか。  説明する目的や相手を明確にし、観点を立てて情報を集められているか。  伝え方の工夫ができているか。		
6月	説明文②（読む）  「好きなもの」を紹介しよう（話す・聞く） 話し言葉と書き言葉（言語） 「伝わる」表現②（話す・聞く）	語句の意味を正確にとらえる。段落に着目して構成をとらえる。  場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。  段落に着目して構成をとらえ、ものの見方や考え方を理解する。  話の構成や順序を工夫し、自分の伝えたいことを整理する。	語句の意味や、段落の構成をとらえられているか。  「伝わる」表現について考えることができたか。  筆者のものの見方や考え方をとらえることができるか。  話し手を意識した伝え方の工夫ができているか。		
7月	書写1 楷書・行書（言語） 文法1 言葉の単位（言語） 随筆①（読む）	場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。  本や文章から必要な情報をとらえる。	「伝わる」表現について考えることができたか。  自分のものの見方や感じ方を広めることができたか。		

時期	学習内容（単元・章・節など）	目標（つきたい力）	指導の要点・評価事項など
9月	書写2 行書（言語） 物語②（読む） 漢字の音訓（言語） 指示する語句と接続する語句（言語）	登場人物の心情や作者の思いなどを読み取る。	「僕」の体験を通して時代背景を理解し、心情や作者の思いを読み取れたか。
10月	古文①（読む） 「伝わる」表現③（話す・聞く） 古文②（読む）	場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。 古典文学に対して興味や関心をもつ。	「伝わる」表現について考えることができたか。 古典のルールや技巧を理解しつつ、現代とのつながりについても理解し、表現に生かしているか。
11月	古文③（読む 書く） 説明文③（読む） 文法2 文の組み立て（言語）	「故事成語」について調べ、現代に生きるものの見方や考え方を理解し、内容を画などで説明する。 文章の中心的部分と付加的な部分、事実と意見を読み分ける。	文章の内容を読み分け、要約することができたか。
12月	話題や方向を捉えて話し合おう（話す・聞く） 「伝わる」表現④（話す・聞く） 古文④	話し合いの話題や方向を的確にとらえて、根拠を明確にして話し合う。 場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。 百人一首に親しむ。	質問をし合って互いの考えを聞き、整理して考えをまとめられたか。 「伝わる」表現について考えることができたか。 札の音読とその聞き取りができたか。
1月	物語文②（読む） さまざまな表現技法（言語）	登場人物の心情の移り変わりをとらえる。	物語の展開に沿って、心情の移り変わりがとらえられたか。
2月	新入生へメッセージを書く（書く） 文法3 単語の分類（言語） 「伝わる」表現⑤（話す・聞く）	伝えたい自分の考えや気持ちを、相手や目的を考えながら書く。 場の状況や相手の様子に応じて話す工夫を聞き取る。	文章を読み返し、わかりやすく推敲することで、自分の表現を高めたか。 「伝わる」表現について考えることができたか。
3月	ポスターセッションをする（書く 話す・聞く） 漢字の成り立ち（言語）	集めた材料を分類・整理して、図表なども活用しながら表現する。	相手や場に応じた、言葉遣いや表現・質問などの工夫ができていたか。

書写については、国語科指導の中でも適宜、指導します。（例）ノートを取り方、文字の整え方、漢字の書き取り、視写など。毛筆も使用しますので、習字セットを準備しておいてください。

平成 31年度 第 1 学年 社会科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2 授業形態	学級単位の普通授業
3	使用教科書	日本文教出版 中学社会地理的分野 日本文教出版 中学社会歴史的分野		
4	副教材としての使用教材など	地理的分野・・・「中学校社会科地図」(帝国書院)、「アクティブ地理」、地理の学習①(浜島書店) 歴史的分野・・・「学び考える歴史」、歴史の学習①(浜島書店)		
5	この教科の学習のねらい	日本や世界の地理的事象や歴史的事象に対する関心を高め、多面的・多角的に考察し、見方や考え方の基礎を培い、地理的認識・歴史的认识を着実に身に付けることで、現在の世界や日本があることを捉え、自らの生活に活かす。		
6	授業の進め方	教室で一斉授業を行う。1年次の中頃から歴史的分野に移行し、地理と歴史を平行に進めていく。		
7	家庭学習や課題について	授業の予習として、教科書をしっかり読んでおく。授業で習ったことを、ワークを中心に、プリント等を使い復習する。		
8	定期テストや評価の方法について	1年間に5回の定期テストを行う(1学期は「中間」「期末」、2学期は「中間」「期末」、3学期は「期末」)。定期テストだけでなく、ノートやワークの提出、授業の様子なども評価の対象とし、4観点に分けて評価する。		
9	授業や学習に対するアドバイス	授業の準備物や提出物など忘れ物がないようし、授業に集中することがもっとも大切である。授業で学習することに関連する内容、新たな発見などが新聞やテレビのニュースとして伝えられることが多いので、日常的に社会に関することについて関心をもってほしい。学習内容のうちで基本的なものはワークを使って繰り返し復習し、理解しておくことが大切である。		
10	年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)		指導の要点・評価事項など
4月	○地理的分野 第1編 世界の様々な地域 第1章 世界の姿	○地図や地球儀を活用しながら、世界の主な国を確認する。 ○地図や地球儀を活用しながら、緯度・経度のしくみを理解することができる。		・大陸と海洋の分布、地域区分などを理解し、その知識を身に付けている。 ・主な国の名称と位置を理解し、その知識を身に付けている。 ・緯度・経度の概念や地球儀と地図の違いを理解し、その知識を身に付けている。
5月 5 6月	第2章 世界各地の人々の生活と環境	○マレーシアの人々のくらしの変化を知るとともに、暑い地域の分布を理解する。 ○モンゴルの人々のくらしの変化を知るとともに、乾燥地域の分布を理解する。 ○イタリアの人々のくらしの変化を知るとともに、温暖な地域の分布を理解する。 ○アラスカの人々のくらしの変化を知るとともに、寒い地域の分布を理解する。 ○アンデスの人々のくらしの変化を知るとともに、山地などの分布を理解する。 ○インド洋沿岸の人々のくらしの変化を知るとともに、海と島の分布を理解する。 ○宗教と結びつく人々のくらしの変化を知るとともに、宗教の分布を理解する。		・世界各地の人々の暮らしの様子とその変容を、衣食住や宗教とのかかわりを中心に、自然的条件や社会的条件と関連付けて考察することができる。 ・世界各地の人々の暮らしや環境の多様性を理解することができる。 ・自分たちの暮らしや文化を絶対視することなく、世界各地の人々の多様な暮らしや文化を尊重する態度を身に付けることができる。 ・世界の気候・地形・都市の分布などを大観することができる。
7月 5 9月	第3章 世界の諸地域	○アジア州の自然環境を確認し、人々のくらしや宗教について理解する。 ○ヨーロッパ州の範囲と主な国のようすを確認し、この地域を大観する。 ○アフリカ州の範囲と主な国のようすを確認し、この地域を大観する。 ○北アメリカ州の範囲と主な国のようすを確認し、この地域を大観する。 ○南アメリカ州の範囲と主な国のようすを確認し、この地域を大観する。 ○オセアニア州の範囲と主な国のようすを確認し、この地域を大観する。		・アジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の基礎的・基本的な知識を習得し、各州の地域的特色を大観することができる。 ・世界の各州の基礎的・基本的な知識から主題を設定し、その追究を通してアジア州、ヨーロッパ州、アフリカ州、北アメリカ州、南アメリカ州、オセアニア州の地域的特色を理解することができる。 ・地球儀や地図・グラフ・写真などの資料を活用し、地誌的知識や概念の定着を図ることができる。
10月	第4章 世界の国を調べてみよう —ロシアと周辺の国々を例に—	○文献資料やインターネットなどを使い、統計数値を活用する調査方法を学ぶ。 ○紀行文や小説・映像資料などを使った調査方法を学ぶ。		・世界の地理学習のまとめとしての調査学習を行い、世界の地理的認識を深めることができる。
	○歴史的分野 第1編 歴史のとらえ方	○小学校の学習内容を振り返り、日本はいくつかの時代に分けられるとともに、時代が変化していることに気づく。		・小学校の学習内容を振り返り、意欲的に発表しようとしている。 ・小学校の学習内容を理解している。
11月 12月	第2編 古代までの日本 第1節 人類の始まりと文明 第2節 日本列島の人々と国家の形成 第3節 古代国家の展開	○世界の古代文明や宗教のおこり、日本列島の農耕の広まり、東アジアの文明の影響を受けながら、日本で国家が形成されていったことを理解することができる。 ○大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら古代国家の仕組みが整えられ、天皇や貴族の政治が展開していったことを理解することができる。 ○仏教の伝来とその影響などを通して国際的な要素を持った文化が栄えたことや、後に仮名文字の成立などを通して、文化の国風化が進んでいったことを理解する。 ○学習したことを活用して、「古代までの日本」を大観し、その特色を表現することができる。		・世界の古代文明や宗教のおこり、日本における国家の形成、律令国家の確立と天皇や貴族の政治の展開、国際的な要素をもった文化と文化の国風化など、古代までの日本の歴史的事象に対する関心を高め、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。
1月 3月	第3編 中世の日本 第1節 鎌倉幕府の成立 第2節 室町幕府と下剋上	○武家政治の特色について考え、武士が台頭して武家政権が成立し、その支配が全国に広まったという中世の特色を理解することができる。 ○元寇、日明貿易、琉球の国際的な役割について学習することを通して、日本が東アジア世界と密接なかかわりがあったことを理解することができる。 ○農業などの諸産業が発達したこと、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みが成立したこと、禅宗の文化的な影響などから、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解することができる。 ○学習したことを活用して「中世の日本」を大観しその特色を表現することができる。		・武家政権の成立とその支配が広まり、東アジア世界との密接なかかわり、武家政治の展開や民衆の成長を背景とした社会や文化などから課題を見つけ、多面的・多角的に考察し、公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。

# 平成 30 年度 第 1 学年 数 学 科 シラバス

1	週単位時間	4 時間	2	授業形態	T, Tによる入り込み授業
3	使用教科書	数研出版「中学校数学1」			
4	副教材としての使用教材など	数研出版 中学数学スタンダード問題集1年			
5	この教科の学習のねらい	小学校での算数の学習をもとに、負の数へと数の世界を広げたり、文字を使った式を用いることで身のまわりのことがらや関係を整理して表したりする方法を学習します。図形の分野では、身のまわりにある平面図形や、空間図形について考えを整理し深めます。また、身の回りにある様々な資料について、活用するための方法を考え、資料の傾向をつかむことを目指します。物事をきちんととらえ、便利な考え方や生活に役立つ方法を利用する姿勢を身につけます。			
6	授業の進め方	基本的には講義形式で授業を進めていきますが、単元によっては体験学習やワークでの演習を取り入れる場合もあります。数や式、関係や図形などについて、その仕組みや方法を学び、それを使った基礎練習を行い、身の回りのことに応用したり、活用する練習をします。2人の教員で生徒の学習指導を行う、T, T(Team Teaching)授業を行います。			
7	家庭学習や課題について	授業の中で出た宿題はその日のうちに家で仕上げ、宿題のない日でも、ワークや教科書の演習問題を必ずしましょう。繰り返し練習することが大切な教科ですので、毎日演習する事を心がけましょう。また、長期休業中には別冊のワークを課題として出し、休み明けには課題テストを実施する予定です。			
8	定期テストや評価の方法について	<p>4つの観点で評価をします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○関心・意欲・態度・・・板書ノート(ファイル)の評価、ワークの評価、出席点、忘れ物点</li> <li>○見方・考え方・・・定期テストにおいて、見方・考え方を問う問題を出題し、その点数で評価します。</li> <li>○数学的な技能・・・その単元での基本的な計算等について、定期テストで問います。</li> <li>○知識・理解・・・その単元において必要な知識やそれについての理解力を定期テストで問います。</li> </ul>			
9	授業や学習に対するアドバイス	教科書・ノート(ファイル)・ワーク・定規・コンパスなどの準備物を忘れず、意欲的に授業に臨みましょう。学習の説明を身体全体で聞き、内容や意味をしっかりと考え、家での宿題や復習を繰り返しましょう。毎日、計算練習や問題を繰り返すことがとても効果的です。ワークを上手く活用して、予習・復習を行うように心がけましょう。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など		
4月	ガイダンス 正の数と負の数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数学の学習方法や授業の進め方など、シラバスの内容を知る。</li> <li>・負の数の意味を理解し、いろいろな数量を正・負の数を使って表すことができる。</li> <li>・数直線、絶対値の意味を理解する。</li> <li>・数の大小関係を、不等号を使って表す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科のねらい、評価の仕方、大切にしたいことについての説明。</li> <li>・負の数の意味を理解しているか。</li> <li>・正の数・負の数を数直線上の点として表すことができるか。</li> <li>・絶対値の意味を理解し、数の大小関係を、不等号を使って表すことができるか。</li> </ul>		
5月	加法と減法 乗法と除法 いろいろな計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加法・減法・乗法・除法の計算の意味を理解し、それぞれの計算方法を習得する。</li> <li>・累乗の指数を理解し、その表現に慣れ、使えるようにする。</li> <li>・交換法則、結合法則、分配法則の意味を知るとともに、それらを使うことで計算がスムーズにできることを知り、活用することができる。</li> <li>・( )のついた式など、複雑な計算や四則混合計算を正確に計算できるようにする。</li> <li>・具体的な事象の問題を、正・負の数を使って考え、いろいろな計算をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同符号の2数について、異符号の2数についての加法の意味と方法を捉え、その計算ができるか。</li> <li>・加減混合計算ができるか。</li> <li>・分数や小数を含む式を計算できるか。</li> <li>・逆数の指導で分数の復習を入れる。</li> <li>・加減乗除の計算ができるか。</li> <li>・指数や四則混合の計算ができるか。</li> <li>・文章題や表を読み取り、計算式を立て、適切に課題解決ができるか。</li> </ul>		
6月	素因数分解 文字と式 文字式の計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>・素因数分解の方法について理解し、実際に素因数分解をすることができる。</li> <li>・文字を使って、式にしたり関係を式に表すことができる。</li> <li>・文字式の積、商の表し方を理解する。</li> <li>・文字に値を代入し、式の値を求めることができる。</li> <li>・1次式の加減の計算ができる。</li> <li>・1次式の乗除の計算ができる。</li> <li>・1次式の項や係数の意味を覚える。</li> <li>・1次式の様々な計算ができる。</li> <li>・文字式で図形の公式を使う。</li> <li>・不等式を用いた表現を理解し使う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に数を、複数の因数に分解することができるか。</li> <li>・数量や関係を式で表すことができるか。</li> <li>・文字式の表し方のルールを理解し、<math>\times</math>や1を省いたり、指数を使うことがマスターできているか。</li> <li>・文字に数値を代入して、式の値を求めることができるか。</li> <li>・項、係数を見極めることができるか。</li> <li>・簡単な1次式の計算ができるか。</li> <li>・1次式の複合的な計算ができるか。</li> <li>・文字式を円や図形の面積や周の長さを求めることに活用できるか。</li> </ul>		
7月	1次方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等式の意味と仕組みを知る。</li> <li>・方程式と解の意味を知る。</li> <li>・等式の性質から方程式を解く方法を知り、その使い方をマスターする。</li> <li>・移項をマスターし、様々な方程式を解く。</li> <li>・不等号を使って数量関係を表すことに慣れる。</li> <li>・比の復習と比例式に比例して理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・等式の性質を理解し、判別できるか。</li> <li>・方程式とその解の意味を理解しているか。</li> <li>・基本的な方程式が解けるか。</li> <li>・やや複雑な方程式が解けるか。</li> <li>・比例式を用いて課題解決ができるか。</li> </ul>		

9月	1次方程式 1次方程式の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・具体的な事象の問題に際して、方程式を利用して手順よく解くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を読んだり、表を読み取って、必要な情報を取り込んで、方程式にできるか。</li> <li>・具体的な事象の問題についてつくった方程式の解が、実際の問題にふさわしい答えであるのかを判別できるか。</li> </ul>
10月	比例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関数の定義を明確にし、理解を深める。</li> <li>・比例の意味を理解し、式で表すことができる。</li> <li>・比例の仕組みについて考える。</li> <li>・変域の考え方を習得し、不等式で表すことができる。</li> <li>・座標について学び、点の座標を読み取ったり、点を平面上に表したりすることができる。</li> <li>・比例のグラフを読み書きできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・比例のようすを表に表したり、比例の関係を式に表現したりすることができるか。</li> <li>・比例について様々なケースについて変域を考え、表すことができるか。</li> <li>・座標を理解し、点や線を読んだり、記したりできるか。</li> <li>・比例のグラフを書き、グラフから比例の式を求めることができるか。</li> <li>・比例のグラフの特徴を理解しているか。</li> </ul>
11月	反比例	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反比例の意味を理解し、関係式をで表すことができる。</li> <li>・反比例のグラフの形とその特徴を理解し、読み書きできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・反比例のようすを表に表したり、関係を式に表すことができるか。</li> <li>・身の周りで反比例の例をあげられるか。</li> <li>・反比例のグラフを書き、グラフから比例の式を求めることができるか。</li> <li>・反比例のグラフの特徴を理解しているか。</li> </ul>
	比例と反比例の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な例をもとに問題解決に比例・反比例の考えを活用できる。</li> <li>・グラフや表を活用できる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでに学習した考え方をういて、問題解決ができるか。</li> <li>・表やグラフを活用する姿勢の有無。</li> </ul>
12月	平面図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線や角に関する用語を理解し、正しく使うことができる。</li> <li>・平行移動、対称移動、回転移動の意味を理解し、移動前後の関係を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・直線と線分との違い、距離や角の定義などを理解しているか。</li> <li>・平面図形に関する簡単な問題を解くことができるか。</li> <li>・3つの移動のそれぞれ、または組み合わせを使って移動させた図をかくことができるか。</li> </ul>
1月	作図	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンパスと定規を使って基本の作図ができる。</li> <li>・基本の作図の方法とその意味を理解して、作図をすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の二等分線が書けるか。</li> <li>・線分の垂直二等分線が書けるか。</li> <li>・2種類の垂線が書けるか。</li> <li>・作図の活用で問題解決ができるか。</li> </ul>
	円とおうぎ形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円に関する用語や、弦の性質、接線の性質を理解し、それらを使って問題を解くことができる。</li> <li>・おうぎ形の弧の長さや面積を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・円の中心の作図、円の接線の作図ができるか。</li> <li>・おうぎ形や中心角について関係を理解し、弧の長さや面積を求められるか。</li> </ul>
2月	空間図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多面体についてイメージを具体化できる。</li> <li>・立体やその部分の名称を理解し、平面や直線の位置関係について知る。</li> <li>・立体を面や線が動いてできる図形としてとらえたり、投影図をかいたり読み取ったりすることを通して、立体についてのいろいろな見方ができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正多面体や柱体、錘体について観察や理解ができるか。</li> <li>・立体の部分の名称がわかるか。</li> <li>・立体各部の位置関係が理解できるか。</li> <li>・回転体、回転の軸、母線の意味を理解しているか。</li> <li>・立体の見取図、立面図、平面図について理解し、かくことができるか。</li> <li>・展開図と見取図の関係が理解し、点海図をかくことができるか。</li> <li>・立体や平面図形の面積や体積、表面積について考えを整理し、求められるか。</li> <li>・球の表面積と体積を求めることができるか。</li> </ul>
	立体の表面積と体積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・回転体や立体の展開図について理解を深める。</li> <li>・立体の表面積や体積を求めることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・展開図と見取図の関係が理解し、点海図をかくことができるか。</li> <li>・立体や平面図形の面積や体積、表面積について考えを整理し、求められるか。</li> <li>・球の表面積と体積を求めることができるか。</li> </ul>
3月	資料の整理とその活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で使われている様々なデータについて、それを整理する方法と分析する姿勢を習得する。</li> <li>・代表値や資料の傾向の取扱について学ぶ。</li> <li>・誤差や近似値について理解し代表値として活用する。</li> <li>・累積度数について理解し、資料の整理に活用することができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料の傾向をつかむことができるか。</li> <li>・資料の代表値をもとにデータを比較したり分析することができるか。</li> <li>・データの代表値としてあつかう値の誤差や近似値について理解し、正しく表現したり、説明できるか。</li> <li>・資料の整理方法の違いを理解して、最も適切な方法で資料を整理できているか。</li> </ul>

平成 31年度 第 1 学年 理 科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2 授業形態	全体授業
3	使用教科書	東京書籍「新しい科学1」		
4	副教材としての 使用教材など	「中学理科ノート1年」(正進社)・理科の完全学習(正進社)など		
5	この教科の学習 のねらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>●身のまわりの自然に興味をもち、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に調べる方法や技術を身につける。</li> <li>●自然の事物・現象についての理解を深め、科学的な見方や考え方を養う。</li> </ul>		
6	授業の進め方	・普通は各教室での全体授業を行います。実験・観察を行う場合は、実験内容に応じて理科室1or理科室2を用いて4～6人のグループで行い、終了後にはノートやレポートの提出を求められることもあります。		
7	家庭学習や課題 について	・授業のあった日には、必ず家に帰って授業ノートを見直すなど復習を行い、分からないところがあれば早めに質問して理解するようにしましょう。また、宿題や課題はその日のうちにやり、期限に遅れず提出することが大切です。問題集の「理科の完全学習」は、別冊のノートがついており、ノートと問題集の2度自分で解くことが可能な問題集となっています。自分で、授業で習った範囲を進めていくと復習もでき自習に効果的です。		
8	定期テストや評価 の方法について	・1年間に5回の定期テスト(1学期「中間」・「期末」、2学期「中間」・「期末」、3学期「期末」)を行います。また、夏休み明けと冬休み明けには、休み明け課題テストを行う場合があります。各テストでは「実験観察の技能・表現が身についているか」「科学的に物事を考えられるか」「科学に関しての知識が身についているか」を中心に評価をします。また、実験観察への取組・レポートの作成、各種小テスト、課題提出とその内容、授業でのようすなども評価の対象となります。		
9	授業や学習に対 するアドバイス	・重要な語句、実験器具の名前や扱い方などはくり返し出てくるので必ず覚えてください。物事には必ず理由があるので、まわりのことと関連づけて考えて覚えると良いでしょう。考えをより深めるためにも、身近な自然や現象、社会の動きに注意をはらっておいてください。授業中は考えたことを手をあげて積極的に発言し、互いに交流してください。		
10	<b>年間の学習事項と評価</b>			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など	
4月	生物分野 身近な自然に目を向けてみよう 植物の世界 1章 花のつくりとはたらき	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いろいろな生物が様々な場所で生活していることを見いだす。</li> <li>・いろいろな花の観察を行い、花の基本的なつくりと特徴を見いだし、それらを花の働きと関連付けてとらえる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ルーペや双眼実体顕微鏡、顕微鏡を正しく使って観察し、目的にあった対象をスケッチできる。</li> <li>・被子植物と裸子植物の花のつくりの違いが分かっている。</li> </ul>	
5月	2章 葉・茎・根のつくりとはたらき	・葉や根、茎の観察を行い、基本的なつくりの特徴を見いだすとともにそれを光合成、呼吸、蒸散に関する実験結果と関連付けてとらえる。	・葉や根、茎のつくりや光合成、呼吸や蒸散の働きを関連付けて考察できる。	
6月	3章 植物の分類	・植物の体のつくりと光合成、呼吸、蒸散などの働きを相互に関連付け、植物全体の働きとしてとらえる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・光合成のはたらきが分かっている。</li> <li>・植物の花や葉、茎、根の基本的なつくりが分かっている。</li> </ul>	
7月	化学分野 身のまわりの物質 1章 身のまわりの物質とその性質	・身の回りの物質の性質を様々な方法で調べ、物質には固有の性質と共通の性質があることを見いだす。	・物質の性質に基づいて物質を区別する方法が分かっている。	



時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)	指導の要点・評価事項など
9月	2章 気体の性質	・気体を発生させてその性質を調べる実験を行い、気体の種類による特性を見いだすとともに、気体の発生方法や捕集法などを身に付ける。	・いろいろな気体の作り方や集め方、性質などが分かっている。
	3章 水溶液の性質	・物質が水に溶ける様子の観察を行い、水溶液の中では溶質が均一に分散していることを見いだすとともに、質量パーセント濃度の意味が分かり、水溶液から溶質を取り出せる方法を見いだす。	・溶質、溶媒、溶液、質量パーセント濃度、再結晶や溶解度の意味が分かっている。
10月	4章 物質の姿と状態変化	・物質の状態変化についての観察実験を行い、物質は融点や沸点を境に、状態が変化することや、沸点の違いによって物質の分離ができることを見いだす。	・物質の体積や質量の測定、沸点や融点の測定、蒸留などの操作ができ、融点、沸点、蒸留などの意味が分かっている。
11月	物理分野 身のまわりの現象 1章 光の世界	・光の反射や屈折の実験を行い、光が水やガラスなどの境界面で反射、屈折するときの規則性を見いだす。	・光の反射や屈折の規則性が分かっている。
	2章 音の世界	・音についての実験を行い、音は物体が振動することによって生じ空気中などを伝えることや音の高さや大きさは振動の仕方に関係することを見いだす。	・音の大小や高低と、振幅、振動数との関係を考察できる。
12月	3章 力の世界	・力のはたらきや圧力は力の大きさと面積に関係があることを見いだす。また、水圧・浮力の存在と規則性を見いだす。	・力や圧力の表し方や単位について分かっている。また、水圧や浮力の特性が分かっている。
1月	地学分野 大地の変化 1章 火をふく大地	・火山の活動の様子や噴出物、火山の形を調べ、それらをマグマの性質と関連付けてとらえる。また、深成岩と火山岩の特徴をとらえる。	・火山の形の違いや火山岩と深成岩の組織の違いは、マグマの粘性や冷え方の違いが原因であることが分かっている。
2月	2章 動き続ける大地	・地震の体験や記録を基に、そのゆれの大きさや伝わり方の規則性をとらえる。また、地震による災害について知り、地震の起こる原因をとらえる。	・震度とマグニチュード、初期微動と主要動の内容、その違いが分かっている。
3月	3章 地層から読みとる大地の変化	・地層ができる過程と、たい積岩の特徴を関連付けてとらえる。また、たい積岩と其中的化石を手掛かりとして、過去の環境と年代をとらえる。また、地震の原因を地球内部のはたらきと関連付け、地震に伴う土地の変化の様子をとらえる。	・たい積岩の種類とその特徴が分かり、化石から過去の環境や年代を推測できる。・日本列島の地下の震源分布とプレートとの関連が分かっている。

平成 31 年度 第 1 学年 英語科 シラバス

1	週単位時間	4時間	2 授業形態	学級単位の一斉授業
3	使用教科書	TOKYO SHOSEKI 「NEW HORIZON English Course 1」		
4	副教材としての 使用教材など	ペンマンシップ、E-PLUS		
5	この教科書の学習 のねらい	1. 外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深めよう。 2. 外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身につけよう。 3. 聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を身につけよう。		
6	学習方法	教科書を中心に学習を進める。活動内容に応じて、ペアワークやグループワークを用いて、定着を図っていく。4技能(聞く・話す・読む・書く)の習得を念頭に学習活動を進める。また、ワークや自作プリントを活用し、基本文の定着を図るとともに、グループワーク等を生かし応用力・自己表現力をつける。		
7	家庭学習や課題 について	授業はもちろんのこと、家庭での学習も大切に、日々の努力を重ねましょう。家庭学習は予習・復習を欠かすことのないように努力しましょう。予習・復習は毎回の宿題になっており、予習はノート作りをし、復習はワークをその日に習ったところまでやるようにします。ノート作りとは、次回の授業で習うところの教科書本文の英文・新出語句をノートに書き写し、単語の意味調べや、英文の日本語訳を書いてくることにし、授業の準備をすることです。毎日英語に触れることや反復学習が重要と考え、課題や宿題を与えるようにしています。		
8	定期テストや評価 の方法について	評価については、授業態度・意欲、提出物や課題、定期テストや小テストなどを総合的に考慮し評価する。 定期テストは既習事項をもとに出題し、リスニング問題も入れ多岐にわたる観点を見るようにする。 観点については、Ⅰ. コミュニケーションへの関心・意欲・態度 Ⅱ. 外国語表現の能力 Ⅲ. 外国語理解の能力 Ⅳ. 言語や文化についての知識・理解 の4項目を評価する。		
9	授業や学習に対 するアドバイス	毎時の授業を大切にし、授業のなかで理解し定着するように心がける。そのためには、準備物を整え、意欲をもって授業に臨むことが大切である。 また、予習・復習を大事にし、毎日少しずつでも取り組むことが定着につながる。		
10	年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	学習内容	指導の要点・評価事項など	
4月	Hi, English! 1-3 Unit 0 アルファベット  単語の書き方	あいさつ、様々な単語、アルファベット、クラスルームイングリッシュ、英語の発音  単語の書き方	アルファベットや身の回りの英語を聞き取り、読み書きと英語であいさつすることができる。  単語の書き方についてのルールを理解する。	
5月	Unit 1 はじめまして  文の書き方 Unit 2 学校で	自己紹介、相手を確認めよう、出身地をたずねよう  This is～. That is～. It is～. Is this (that)～? He / She is (not)～.	I am ～. を使って自己紹介し、You are ～. を使って相手のことを表現する。 英文の書き方のルールを理解する。 持ち主のものを表現し、だれのものかたずねることができる。第三者(彼・彼女)について表現することができる。	
6月	辞書の使い方1  Unit 3 わたしの好きなこと  Listening Activity 1  Unit 4 ホームパーティー	辞書の使い方  一般動詞(主語が一人称と二人称) 一般動詞の疑問文・否定文 英語でコマースシャルを聞く  名詞の複数形、How many～? 命令文(提案)	辞書の使い方を理解し、使うことができる。 likeやstudyなどの一般動詞を使って、英語で表現できる。 英語でコマースシャルを聞き取ることができる。 学習内容を用いて、英語で表現することができる。	
7月	辞書の使い方2  Presentation 1 自己紹介 Unit 5 学校の文化祭	辞書の使い方(品詞)  英語での自己紹介 疑問詞(What)、形容詞	辞書の使いたかを理解し、必要な情報を活用することができる。 自己紹介を発表する。 自分が知らないものについてたずねることができる。ものの性質や状態を英語で表現することができる。	

9月	Daily Scene 1 体調をたずねる Unit 6 オーストラリアの兄 Daily Scene 2 電話の会話	What's wrong? - I have~. 一般動詞(三人称) 一般動詞(三人称)疑問文・否定文 Hello? - Hello, ~? This is~.	相手の体調をたずねたり、自分の体の不調について説明したりすることができ、自分と相手以外の人やものなどについて話すことができ、たずねることができる。 電話ごしに英語で対話することができる。
10月	Listening Activity 2 Unit 7 ブラジルから来たサッカーコーチ Daily Scene 3 グリーティングカード	簡単なスピーチを聞こう 疑問詞 (Who, What time, Which) グリーティングカードを書く	スピーチを聞き取ることができる。 知らない人やもの、時刻などについてたずねることができる。 目的に合わせて、いろいろなカードを書くことができる。
11月	Unit 8 イギリスの本 Daily Scene 4 ウェブサイト 音の変化	疑問詞 (where, whose) 人称代名詞(目的格): him / her 英語でウェブサイトを理解しよう まとまった英語の音の変化について	どこにあるか、だれのものかをたずねることができる。 自分と相手以外の人やものなどについて対話を続けることができる。 自分の学校について、3文以上の英語で書くことができる。 音の変化について理解し、聞き取ることができる。
12月	Unit 9 チャイナタウンへ行こう Daily Scene 5 道案内 Listening Activity 3	現在進行形 現在進行形の疑問文・否定文 命令文(禁止・注意) I'm looking for~. 交通情報を聞こう	今していることについて話したり、たずねたりすることができる。 相手に何かを禁止したり、注意を促したりすることができる。 徒歩での道順をたずねたり、数えたりすることができる。 英語で交通情報を聞き取ることができる。
1月	Presentation 2 一日の生活 Unit 10 あこがれのボストン Daily Scene 6 ちょっとお願い	一日の生活を英語で表現する 助動詞(can) canを用いた疑問文・否定文 Can I~? Can you~? (許可・依頼)	学習した英語表現を用いて、3文以上で一日の生活を発表することができることやできないことについて話したり、たずねたりすることができる。 身近な人に許可を求めたり、依頼したりすることができる。
2月	発音記号 Unit 11 思い出の一年 Daily Scene 7 絵はがき	発音記号 一般動詞の過去形 過去形を用いた疑問文・否定文 英語での手紙の書き方	発音記号について理解する。 過去の出来事について話したり、たずねることができる。 3文以上の英語で手紙を書くことができる。
3月	Listening Activity 4 Presentation 3 思い出の行事 Let's Read The Restaurant with Many Orders 筆記体の書き方について	ラジオを聞こう 総まとめ まとまりのある文章を英語で読む 筆記体の書き方について	英語でラジオを聞き取ることができる。 3文以上の英語で思い出について発表することができる。 英語で文章を理解することができる。 筆記体の書き方について理解する。

平成 31 年度 第 1 学年 音楽科 シラバス

1	週単位時間	2時間	2	授業形態	学級単位の普通授業
3	使用教科書	中学生の音楽1年・中学生の器楽 <教育芸術社>			
4	副教材としての使用教材など	音楽のワークブック 1年 <奈良県中学校音楽教育研究会>			
5	この教科の学習のねらい	①音楽活動の楽しさを体験することを通して、音や音楽への興味、関心を養い、音楽によって生活を明るく豊かなものにする態度を養う。 ②音楽表現の豊かさや美しさを感じ取り、基礎的な表現の技術を身につけ、創造的に表現する能力を育てる。 ③多様な音楽に興味、関心を持ち、幅広く鑑賞する能力を育てる。			
6	授業の進め方	リコーダー実技演奏、歌唱実技の実践を核に鑑賞、音楽理論、芸能音楽等の学習を深めていく。			
7	家庭学習や課題について	・実技テストで歌う曲の歌詞、メロディーを覚えましょう。 ・実技テストで演奏するアルトリコーダーの曲を練習しましょう。			
8	定期テストや評価の方法について	定期考査100点 実技評価約160点（歌唱実技:70～90(学期によって変更) リコーダー実技:60～90(学期によって変更) その他提出物、鑑賞記述等を観点別に評価し5段階判定を行う。 実技試験において病気、怪我等の考慮する事情がなく受験しない場合は最低評価とする。			
9	授業や学習に対するアドバイス	絶対に忘れ物をしないようにする。特にリコーダーを忘れると授業中なにもできません、注意しましょう。歌唱は大きな声でハッキリと歌えるようにがんばろう。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)		指導の要点・評価事項など	
4月 5月	「校歌」 「We'll Find The Way」	大きな声でのびのびと歌う。 明るくメロディーの流れにのって歌う。 2部合唱の響きを感じる。また両方のパートの音を歌唱し、ハーモニーの感覚を感じる。		歌詞を覚えしっかりと歌えているか。 明るくのびのびと歌えているか。 それぞれのパートの音をしっかりとれているか。	
	「主は冷たい土の中に」 リコーダー 「喜びの歌」「かっこう」 「主は冷たい土の中に」	曲の時代背景を知り、歌唱に生かすことができる。  基礎的な奏法を身につける。 歌唱とのアンサンブルができる。		作曲家や時代背景について理解できたか。  タンギング、一点ハ～一点トの運指が定着できたか。 歌のメロディーを意識しながら演奏することができたか。	
6月	「エーデルワイス」 鑑賞「春」第一楽章	英語で歌唱できる。  曲想の変化を感じ取ることができる。 時代背景や作曲科について知る。		英語の発音を正確にし、歌唱できているか。  ソネットを手がかりに曲想を感じ取り、情景を想像することができたか。 作曲家について理解できたか。	
7月	リコーダー実技試験 歌唱実技試験 「文化祭学年曲」 「文化祭クラス曲」	文化祭に向け意欲・技術を高める。		文化祭に向け意欲的に取り組んでいるか。	

<p>9月 10月</p>	<p>「文化祭学年曲」 「文化祭クラス曲」</p> <p>「浜辺の歌」</p> <p>リコーダー 「オーラリー」 「アニーローリー」</p>	<p>文化祭に向け意欲・技術を高める。 合唱・ハーモニーの楽しさを感じる。</p> <p>フレーズの特徴を生かした表現を工夫</p> <p>低音部・サミングを使用した高音部の運指を習得する。</p>	<p>自分のパートの音をしっかりとれているか。 大きな声で歌詞をハッキリと歌えているか。 協力して歌えているか。 フレーズの流れや歌詞を理解し歌唱に生かしているか。</p> <p>低音部・高音部で息遣い等、工夫をしきれいに音をだせているか。</p>
<p>11月</p>	<p>「文化祭学年曲」 「文化祭クラス曲」</p> <p>歌唱実技試験 鑑賞「魔王」</p>	<p>文化祭に向け意欲・技術を高める。</p> <p>詩の内容を理解し曲想の変化とのかかわりを感じ取る。 時代背景や作曲者について知る。</p>	<p>文化祭当日一所懸命舞台上で歌えているか。</p> <p>詩の内容を理解し歌曲の特徴を感じ取ることができたか。 ピアノ伴奏の表現と変化を感じ取ることができたか。 作曲者について理解できたか。</p>
<p>12月</p>	<p>リコーダー実技試験</p> <p>「浜辺の歌」</p>	<p>フレーズの特徴を生かした工夫をする。</p>	<p>8分の6のフレーズに乗り歌えているか。</p>
<p>1月 2月</p>	<p>和楽器 和太鼓合奏</p> <p>「合唱曲」</p> <p>リコーダー 「虹のかなたに」 「われは海の子」</p>	<p>日本の伝統楽器を知り、その中の一つである和太鼓を体験する。</p> <p>次年度の文化祭に向けスキルアップを目指す。</p> <p>低音部・高音部の運指の定着を図る。</p>	<p>積極的に参加する事ができたか。</p> <p>各パートの音をしっかりとれているか。 ハーモニーのバランスを取りながら歌唱できているか。</p>
<p>3月</p>	<p>鑑賞 「六段の調べ」</p> <p>リコーダー実技試験 歌唱実技試験</p>	<p>日本の伝統音楽に親しみ、速度の変化や伝統的な形式を感じとる力をつける。</p>	<p>サミング等運指上の技術が定着できているかどうか。</p> <p>和太鼓に続き箏曲に触れ、日本の伝統楽器・音楽に慣れ親しみ伝統的な形式である序破急の形を感じることができているか。</p>

平成31年度 第1学年 美術科 シラバス

1	週単位時間	1時間	2	授業形態	一斉授業
3	使用教科書	書籍 日本文教出版「美術1」			
4	副教材としての使用教材など	秀学社「美術資料」 秀学社「レタリング字典」			
5	この教科の学習のねらい	①「美的、造形的表現・想像」 ②文化・人間理解 ③心の教育			
6	授業の進め方	作業の準備物は早めに整えておくと、スムーズに内容に取りかかれます。まず一斉授業で説明をします。その後、ひとりひとり個別に対応してアドバイスし、個性を活かした作品になるよう助言します。授業の最後に片づけの時間があります。			
7	家庭学習や課題について	課題の「テーマ」をよく把握して制作しましょう。授業以外でもアイデアを練ったり、個人的に資料を集めることが、表現を豊かにしたり、すばらしい作品制作につながります。完成・提出期限を守りましょう。			
8	定期テストや評価の方法について	関心・意欲・態度は、授業の取り組みの集中度・作品の完成度・準備物(忘れ物がないように)。発想・構想の能力は、アイデアスケッチや作品の構成・構図・配色構想・技法活用の工夫など。創造的な技能は、具体的な技能(彩色・制作技術など)。鑑賞の能力は、期末テスト・授業プリント・制作記録など。			
9	授業や学習に対するアドバイス	週に1回の授業なので準備物は絶対に忘れないこと。アイデアを考えたり構想を練る時間がとても大切ですが、やみくもに考えてもいい発想は出てきません。普段からポスターや雑誌の表紙や、新聞など身の回りのいろいろなことから感覚を磨くことが大事です。芸術家の作品から学ぶこともできます。自分たちの周りにあるいろいろなデザインなどからも学べます。また、自然は最高の芸術です。自然の観察から学べるものも多いです。観察・好奇心・そして、まず表現してみることが大事です。頭の中だけで考えないで何でもまず形を表現して少しずつ改良して作品を作っていきます。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)		指導の要点・評価事項など	
4月	オリエンテーション	・美術の授業に関する心構えと授業のルール (規律ある態度・約束や決まりを守る)		・画面構成の美しさ ・独創的な表現の工夫	
	美術との出会い	・自分を見つめ直し、表現する。			
	レタリング	・文字の果たす役割を的確にとらえ、その特徴を理解し応用する力を身につける		・明朝体、ゴシック体の特徴をつかみ、丁寧に美しくレタリングできる	
	(色の整理)	・アクリル絵の具の使い方、色彩表現の魅力について知る		・絵の具の彩色の工夫	
5月 ～ 7月	「名刺」づくり	・将来就きたい職業を考え、レタリングとイラストを使い「名刺」をつくる。		・色について知ったことを作品に生かす ・書体の違いを理解している	
9月 ～	絵文字をつくる	・文字の特徴を生かして、イラストと文字を組み合わせる。 ・変化や統一のある画面をつくる。 ・丁寧に彩色する。		・画面構成の美しさ ・独創的な表現の工夫 ・配色、彩色の美しさ	
12月	(配色のくふう) (色面構成)	・配色の基本的な決まりを知る。 ・デザインの基礎的な技法を身につける		・配色について知ったことを作品に生かす ・デザインの道具の使い方の理解と習	
1月 ～ 3月	模写	・印象派、ルネッサンス時代の有名な作品に、触れて、その時代や作者の生き		・見た作品をしっかりと描く ・作品に色を実際自分の目で見て着色する	
	鑑賞	・1年間の作品を鑑賞することで、自分と他者への理解を深め、また、来年度への意欲を持つ。		・他者、自分の作品の表現を理解す	

平成 31年度 第1学年 技術科 シラバス

1 週単位時間	1 時間	2 授業形態	一斉授業(教室)、実習(第一技術室)
3 使用教科書	開隆堂「技術・家庭 技術分野」		
4 副教材としての使用教材など	実習教材(木工作品製作セット・金属加工製作セット)、技術家庭ノート(技術分野)		
5 この教科の学習のねらい	「生活を豊かにするものをつくろう」という課題を提示することにより、ものをつくる技術について自ら考え、各種加工に必要な道具の使い方を体得するとともに、創意工夫・意欲関心・問題解決力・生きる力を培う。		
6 授業の進め方	学級教室で講義形式の授業で、その後は第一技術室での実習授業が中心です。実習は5人1班で作業を行います。安全に作業を行う事を第一にして、意欲を持った作業、作業終了後の片付け・清掃等を短時間で確実にできるように努力する。		
7 家庭学習や課題について	ものづくりへの興味・意欲・関心を高めるため、実習内容や自分で調べた内容をレポート(プリント、ノート等に記入)にして提出してもらうことがあります。ノートも毎学期末に提出してもらいます。		
8 定期テストや評価の方法について	学期末に1回、1年間で3回の期末テストを実施し、基本的な内容が理解できているかを評価します(知識・理解)。またノートやレポート等の提出物で授業への意欲的な参加や内容の創意・工夫を評価します。実習作業を通して、意欲を持って作業しているか、作品の出来から創意・工夫と技能を評価します。		
9 授業や学習に対するアドバイス	授業では教科書・ノートなど忘れ物がないようにしましょう。実習では、作業前の注意事項をしっかり聞いて理解し、安全作業ができるようにしましょう。またみんなで協力して作業を行い、作業後の片付け等に積極的に取り組みましょう。失敗しても自分でよく考え、問題を解決する習慣と力を身につけましょう。		

10 年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)	指導の要点・評価事項など
4月	・ガイダンス ・生活を支える技術 ・くふうすることのすばらしさ	技術の進歩が、私たちの生活活動をより便利にしてくれていることを知る。創造性を高めるための手法を知り、創意工夫できる力を養う。	創意・工夫を凝らすことの重要性を知るとともに、その実現のための技術を知る。
5月	・材料の特徴	さまざまな材料(主に木材・金属・プラスチック)の特徴を知り、適切な材料を選択できるようになる。	さまざまな材料やものの実物を見て、触ることで、実体験的な学習につなげる。
6月	・つくりたいものを考え構想にまとめよう	機能や構造等を考慮した設計ができる。	作図課題を宿題として提出、正誤を評価する。
7月	・材料を加工して部品にしよう	作業工程を理解し、適宜必要な道具や機械を正しく使用することができる。	体験、演示は実習で行い、実習の向けての知識としての道具と機械の使用法を学ぶ
9月	・部品を組み立てて仕上げよう	既習の木材の加工方法を生かして、作品を正確に作り上げる。	安全指導、整理整頓、室内美化の徹底。
10月	・木材等を用いた作品の製作実習	けがき・切断・やすりがけ・下穴あけ・くぎ打ち・検査と修正等ができる。	各作業の正確さ(けがき、切断、くぎ打ち、部品の直角度など)を評価する。
11月		既習の金属の加工方法を生かして、作品を正確に作り上げる。	
12月	金属を用いた作品の製作実習	切断 卓上ボール盤 やすりがけ等ができる	体験、演示は実習で行い、実習の向けての知識としての道具と機械の使用法を学ぶ
1月			
2月			
3月	・これからの生活と技術について考えよう ・学習のまとめ	木材資源・環境にやさしい技術・リサイクル等について考える。	まとめとしてレポート課題を出す。

平成 31 年度 第 1 学年 家庭科

シラバス

1	週単位時間	1 時間	2 授業形態	一斉授業(教室)班学習(被服室)
3	使用教科書	開隆堂「技術・家庭 家庭分野」		
4	副教材としての使用教材など	技術・家庭ノート 家庭分野(ワーク)		
5	この教科の学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の成長を振り返りながら、幼児の発達の特徴と家族の役割を知り、家族関係をよりよいものにしましょう。</li> <li>・自分達に必要な栄養や食品の性質について理解し、日常食の調理を通して簡単な食事を整えることができるようになりましょう。</li> </ul>		
6	授業の進め方	学級教室での一斉授業が中心ですが、班で学習をする時は、6～7人の班で被服室を使用します。		
7	家庭学習や課題について	学校の授業だけでなく、家庭での食生活に関わる仕事を実践することでより確かな力となります。実践内容や調べた内容をレポートにまとめて提出してもらうことがあります。取り組み状況は評価の対象になります。		
8	定期テストや評価の方法について	学期末に1回、1年間で3回の期末テストを実施し、基本的な内容が理解できているかを評価します(知識・理解)。またワークやレポート等の提出物で授業への意欲的な参加や内容の創意・工夫を評価します。		
9	授業や学習に対するアドバイス	準備物(教科書・ワーク)を忘れず、意欲的に取り組みましょう。また、学習したことを家庭の中で実践する習慣を付けましょう。		
10	年間の学習事項と評価			
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つけたい力)		指導の要点・評価事項など
4月	オリエンテーション	・家族と家庭生活について理解できる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・子供や中学生にとっての家族や家族の基本的なはたらきについて考えることができたか。</li> <li>・発達には個人差があることが理解できたか。</li> <li>・幼児にとっての遊びの意義について考えることができたか。</li> </ul>
5月	わたしたちの成長と家族			
6月	地域	・幼児の心身の発達の特徴を知る。		
7月		・幼児の生活と遊びの意義について理解できる。		・食事の大切さを知り、食品に含まれる栄養素が身体の中でどのようなはたらきをするかを知る。
9月	健康と食生活	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食事の役割や大切さを理解する。</li> <li>・栄養素のはたらきを理解し、体内の水のはたらきを知る。</li> </ul>		・食品群別摂取量をワークなどで理解できたか知る。
10月		・中学生の食事摂取基準の特徴を理解する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>・6つの食品群が分類できるか発表などで確認する。</li> <li>・ワークシートで献立をたてられる。</li> <li>・生鮮食品には旬があることを知る。</li> <li>・加工食品の表示やマーク、食品添加物について理解できたか。</li> </ul>
11月		・食品を6つの食品群に分け、何をどのくらい食べればよいかを考えることができる。		
12月		・食品群別摂取量のめやすを用いて献立をたて、バランスのとれた食生活ができる。		
1月	食品の選択と保存	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生鮮食品や加工食品の品質を見分け、用途に応じて適切に選択できる。</li> </ul>		
2月				
3月				



平成 31年度 第 1 学年 男子 保健体育科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2	授業形態	男女別修, または男女共修
3	使用教科書	新中学保健体育 学研			
4	副教材としての 使用教材など	新中学保健体育の学習1(学研)			
5	この教科の学習 のねらい	積極的に運動に親しむ資質や能力の育成 健康の保持増進のための実践力の育成 体力の向上, 及び心の成長の育成			
6	授業の進め方	体育実技は, 男女別に行うことを基本としていますが, 男女共修で行う単元もあります。 保健は, 男女別, もしくは学級ごとに行います。 授業のはじめには, ラジオ体操第2と, サーキットトレーニングを行い, 体力の向上に取り組んでいます。			
7	家庭学習や課題 について	生涯にわたって健康を維持するために, 毎日の生活に運動を取り入れていく工夫をしましょう。 長期休業には, 体力向上のための自主トレーニング(パワーアップメニュー)があります。			
8	定期テストや評価 の方法について	関心・意欲・態度については, 授業の出席, 見学, 遅刻, 忘れ物や, 授業での準備, 片付けなど毎時間の授業への参加態度などから評価します。 思考・判断については, 授業内で使用するプリントや, 学習ノート, パワーアップメニューなど, 提出物などから評価します。 技能については, 実技の単元ごとに, 実技テストを実施します。記録を測ったり, フォームを見たり, 達成度を見たりと, いろいろな角度から運動技能を評価します。 知識理解については, 学期に一度, 定期テストをおこないます。			
9	授業や学習に対 するアドバイス	まず, 欠席や見学がなく体操服で授業に参加することが大前提です。 見学についても, 体操服が基本です。みんなと同じように授業に参加することができない場合も, できることを自分から積極的に行う姿勢をもってください。 頭髪・くつ・つめなど, 安全に運動できるよう心がけましょう。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)		指導の要点・評価事項など	
4月	体づくり運動	・自分の体力を知り, 向上をめざす ・ラジオ体操第2を正しく身につける		・ラジオ体操第2テスト	
5月	集団行動 新体力テスト	・基本的な集団行動を身につける		・集団行動ができていないか ・体力テスト記録測定	
6月	陸上競技(短距離走)	・走る基本を知り, 速く走れるようにする ・クラウチングスタートを身につける		・タイム測定 ・実技テスト	
7月	水泳 武道(剣道)	・長く泳げるようにする ・剣道の特性を知り, 礼儀作法や基本動作を身につける		・タイム測定, 実技テスト ・実技テスト	
7月		・体の機能は年齢とともに発達することを理解する ・体力の意義とその高めかたについて理解する		・定期テスト	
9月	体育大会練習 陸上競技(リレー)	・集団行動・体操・行進をきちんとおこなう ・バトンパスを練習し, 協力してリレーを楽しむ		・タイム測定 ・実技テスト	
10月	器械運動(マット運動)	・柔軟性を高め, 回転・倒立の基本を身につけ, 発展させる ・個人に応じた種目に挑戦し, スキルアップを楽しむ		・実技テスト	
11月	ソフトボール	・キャッチボールの基本を身につける ・ボールを速くに投げられるようにする ・バッティングの基本を身につける		・実技テスト	
12月		・思春期には, 生殖にかかわる機能が成熟することを理解する ・体の変化に応じた適切な行動がとれるようにする		・定期テスト	
1月	バスケットボール	・パス・ドリブル・シュートの技術の基本を身につける ・協力して簡易ゲームをおこなう		・実技テスト	
2月	長距離走 サッカー	・精神機能の発達とともに, 自己形成がなされることを理解する ・心の健康を保つための適切な対処法を理解する ・持久力を伸ばし, 長い距離を速く走れるようにする		・タイム測定 ・記録測定 ・実技テスト ・定期テスト	
3月	ダンス	・基本的な技術を身につけ, ゲームの中で集団技能を組み立てる ・同じステップやリズムでおどって楽しむ ・リズムカルな動きを継続して行う		・リズムにのっておどれているか	

平成 31年度 第 1 学年 女子 保健体育科 シラバス

1	週単位時間	3 時間	2	授業形態	男女別修, または男女共修
3	使用教科書	新中学保健体育 学研			
4	副教材としての 使用教材など	新中学保健体育の学習1(学研)			
5	この教科の学習 のねらい	積極的に運動に親しむ資質や能力の育成 健康の保持増進のための実践力の育成 体力の向上, 及び心の成長の育成			
6	授業の進め方	体育実技は, 男女別に行うことを基本としていますが, 男女共修で行う単元もあります。 保健は, 男女別, もしくは学級ごとに行います。 授業のはじめには, ラジオ体操第2と, サーキットトレーニングを行い, 体力の向上に取り組んでいます。			
7	家庭学習や課題 について	生涯にわたって健康を維持するために, 毎日の生活に運動を取り入れていく工夫をしましょう。 長期休業には, 体力向上のための自主トレーニング(パワーアップメニュー)があります。			
8	定期テストや評価 の方法について	関心・意欲・態度については, 授業の出席, 見学, 遅刻, 忘れ物や, 授業での準備, 片付けなど毎時間の授業への参加態度などから評価します。 思考・判断については, 授業内で使用するプリントや, 学習ノート, パワーアップメニューなど, 提出物などから評価します。 技能については, 実技の単元ごとに, 実技テストを実施します。記録を測ったり, フォームを見たり, 達成度を見たりと, いろいろな角度から運動技能を評価します。 知識理解については, 学期に一度, 定期テストをおこないます。			
9	授業や学習に対 するアドバイス	まず, 欠席や見学がなく体操服で授業に参加することが大前提です。 見学についても, 体操服が基本です。みんなと同じように授業に参加することができない場合も, できることを自分から積極的に取り組む姿勢をもってください。 頭髪・くつ・つめなど, 安全に運動できるよう心がけましょう。			
10	年間の学習事項と評価				
時期	学習内容(単元・章・節など)	目標(つきたい力)	指導の要点・評価事項など		
4月	体づくり運動	・自分の体力を知り, 向上をめざす ・ラジオ体操第2を正しく身につける ・基本的な集団行動を身につける	・ラジオ体操第2テスト ・集団行動ができていくか ・体力テスト記録測定		
5月	集団行動 新体力テスト	・走る基本を知り, 速く走れるようにする ・クラウチングスタートを身につける	・タイム測定 ・実技テスト		
6月	陸上競技(短距離走)	・長く泳げるようにする	・タイム測定, 実技テスト		
7月	水泳 武道(剣道)	・剣道の特性を知り, 礼儀作法や基本動作を身につける ・体の機能は年齢とともに発達することを理解する ・体力の意義とその高めかたについて理解する	・実技テスト ・定期テスト		
9月	体育大会練習 陸上競技(リレー)	・集団行動・体操・行進をきちんとおこなう ・バトンパスを練習し, 協力してリレーを楽しむ	・タイム測定 ・実技テスト		
10月	ソフトボール	・キャッチボールの基本を身につける ・ボールを速くに投げられるようにする ・バッティングの基本を身につける	・実技テスト		
11月	器械運動(マット運動)	・柔軟性を高め, 回転・倒立の基本を身につけ, 発展させる ・個人に応じた種目に挑戦し, スキルアップを楽しむ	・実技テスト		
12月		・思春期には, 生殖にかかわる機能が成熟することを理解する ・体の変化に応じた適切な行動がとれるようにする	・定期テスト		
1月	陸上競技(長距離走)	・持久力を伸ばし, 長い距離を速く走れるようにする	・実技テスト		
2月	サッカー	・基本的な技術を身につけ, ゲームの中で集団技能を組み立てる ・精神機能の発達とともに, 自己形成がなされることを理解する ・心の健康を保つための適切な対処法を理解する			
3月	バスケットボール	・パス・ドリブル・シュートの技術の基本を身につける ・協力して簡易ゲームをおこなう	・タイム測定 ・記録測定 ・実技テスト ・定期テスト		
3月	ダンス	・同じステップやリズムでおどって楽しむ ・リズムカルな動きを継続して行う	・リズムにのっておどれているか		